

平成30年度 児童アンケート結果と考察

4:よくあてはまる
3:ややあてはまる
2:あまりあてはまらない
1:まったくあてはまらない

評価項目		全学年の児童の評価割合					
		4	3	2	1	平均点	昨年度
くらしのこと							
1	「くん」「さん」をつけて、名前をよんでいる。	47.9	32.5	16.1	3.6	3.3	3.7
2	黙々そうじができています。	56.3	39.1	4.1	0.5	3.5	3.3
3	自分から進んであいさつや返事をしている。	56.7	35.2	7.0	1.1	3.5	3.6
4	ろうかを走らず、静かに歩いている。(1・3・4歩き)	32.9	49.7	14.0	3.4	3.1	3.3
5	トイレのスリッパは、次に使う人のことを考えて並べている。	81.7	13.3	3.5	1.5	3.8	3.6
6	給食は残さず食べている。	81.7	13.3	3.5	1.5	3.8	3.8
7	学校は、楽しい。	70.0	25.5	4.0	0.6	3.6	3.7
学習のこと							
11	先生や友達の話をしっかり聞いている。	58.8	35.1	4.1	2.0	3.5	3.6
12	自分の考えを進んで発表している。	41.8	37.8	14.8	5.6	3.2	3.2
13	授業で分からないことがあったら、質問している。	38.2	34.9	16.4	10.4	3.0	3
14	家庭学習をきちんとしている。	76.9	17.5	4.2	1.5	3.7	3.7
先生や自分のこと							
15	先生は話(考えやなやみなど)をよく聞いてくれる。	76.6	18.9	4.0	0.6	3.7	3.7
16	先生は、よいことをしたり努力したりしたことをみとめ、ほめてくれる。	77.7	19.2	2.3	0.9	3.7	3.8
17	先生の授業はわかりやすい。	79.4	17.4	2.5	0.8	3.8	3.8
18	将来の夢や目標をもって、努力している。(3～6年のみ)	65.7	24.5	6.8	3.0	3.5	3.5

児童アンケートを受けて

【くらしのことについて】

- 概ね4と3の評価をつける児童が多く、教師の指導の効果とともに、児童が自立した学校生活を送っていることが分かる。
- トイレのスリッパ並べや食育指導については、学校全体で共通して指導した効果が現れていると考える。
- 「くん」「さん」については今年度より、「いつでもどこでも誰にでも」行うことを重点的に指導したため、児童の意識が高まり、評価が厳しくなったのではないかと考える。習慣化するまで指導を続ける必要がある。
- 2と1の評価をつけた児童を3以上に引き上げる具体的な指導をアンケート後行ってきた。特に廊下歩行については、学年・学級により実態が異なり、担任を中心に学級の課題を明確にし、ポイントを絞り込んだ改善への具体的な取組を行ってきた。

【学習のことについて】

- 評価項目の11と14の評価から、学校経営に示されている努力事項の「しんとして聞く」「家庭学習の習慣化」を意識した指導の効果が、学習規律として児童に身に付いていることが分かる。
- 評価項目の12と13については2と1の評価をつけている児童が多い。本年度のスローガンである「自立と協働」を実現するために、最も児童につけさせたい学習の力である。教師との対話だけでなく、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を目指して授業改善に取り組まなくてはならない。教職員研修が活発に推進されているため、それを生かした毎日の授業実践の繰り返しによって、今後改善が期待される。

【先生や自分のことについて】

- 今年度は毎月「なかよしアンケート(いじめアンケート)」を行い児童の心の状態把握と課題改善に努めた。さらに、教師が朝の時間や昼休みの時間を児童と共に過ごし、児童理解を進めたこと、教職員研修の推進等、個に応じた教師の関わりが、良い評価につながっていると考えられる。しかし、教職員のねらいは全ての児童に「笑顔いっぱい 元気いっぱい 夢いっぱい」の力をつけることである。そのことを忘れず児童一人一人の指導に力を注がなければならない。